

年	組	名前
---	---	----

- ① 「86・1%」がだいたいどれくらいか、下の円グラフに1本の直線を引き、あてはまる部分を塗りつぶしてみましょう。



- ② 記事の数値を基に計算すると、アンケートに回答した人のうち、投票に行った人の数はおよそ何人になりますか。

約5218人

- ③ 若年層の低投票率が課題となっていますが、回答した新聞読者18～29歳の投票率は79・8%で、全有権者（54・70パーセント）を大きく上回っています。理由を考えてみましょう。

新聞19紙の読者を対象にしたアンケートで、7月の参院選で「投票した」と答えた人は86・1%だった。参加各社が31日付で発表した。総務省が発表した全有権者の投票率54・70%（選挙区）を大きく上回った。新聞広告の効果を共同で調査するシステム「ジェイ・モニター」を利用し、選挙後の7月11～17日にインターネット上で実施。首都圏、中京圏、近畿圏と北海道、宮城、新潟、長野、静岡、岡山、広島、福岡各県の18歳から60代の有権者6060人が回答した。

## 新聞読者の投票率 86.1%

### 投票率54・7%の参院選

投票した人を年代別に見ると、60代が最も高く92・3%に上った。最低は18～29歳の79・8%だった。投票で重視した政策（複数回答）は「憲法改正」が40・9%でトップ。以下「経済政策・景気対策」36・4%、「年金制度」31・1%と続いた。

投票の際に参考にした情報（複数回答）は、新聞記事70・1%、政見放送以外25・3%あった。

19紙アンケート

「18歳選挙権」の導入による態度の変化（複数回答）を尋ねたところ、「家族や友人と政治や社会について話題にするようになった」「テレビのニュース番組をよく見るようになった」が共に33・3%で最も高かった。「新聞記事をよく読むようになった」との回答も25・3%あった。

のテレビ番組37・8%、選挙公報33・6%の順。新聞社や政党のサイト、ソーシャルメディアなどインターネットを参考にしたと答えた人は計23・2%だった。18～20歳の新有権者に「18歳選挙権」の導入による態度の変化（複数回答）を尋ねたところ、「家族や友人と政治や社会について話題にするようになった」「テレビのニュース番組をよく見るようになった」が共に33・3%で最も高かった。「新聞記事をよく読むようになった」との回答も25・3%あった。

(2016年8月31日付朝刊2面)

家族や友人と政治や社会について話をしたり、ニュースによく接しているから。